

辰口町敬老会とのタウンミーティング

日 時 令和7年11月25日（火）10:00～11:15

会 場 辰ノ口会館よろっさ

参加人数 37人

1) 開会

2) 辰口町 畔田町会長挨拶

3) 市長 市政報告

○はじめに

～プロフィール、能美市長の一日・一か月を紹介～

○主なできごと

- ・2005年に能美市が誕生し、2015年に10周年式典を行った。また、2015年は北陸新幹線金沢開業の年でもあった。その翌年の2016年には、マイナンバーカードがスタートした。
- ・2017年はロシアシェレホフ市と親善50周年、姉妹都市提携40周年の節目の年であった。
- ・2018年には夏の甲子園が100回目を迎え、「栄冠は君に輝く」の作詞者「加賀大介」さんのタイムカプセルを掘り起こした。この年の甲子園で松井秀喜さんが始球式を行い、当時の朝日新聞渡辺社長が挨拶の中で「能美」という言葉を出してくれた。
- ・2019年に令和がスタートし、2020年にはSDGs未来都市に選定された。
- ・2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックが新型コロナウイルスの影響で1年遅れて無観客開催となり、能美市からはライフル射撃の平田しおり選手が出場した。

- ・2022年には成人年齢が18歳に引き下げられた。
- ・2023年は加賀立国能美誕生1200年の節目であり、様々な催しを行った。
- ・2024年には北陸新幹線の石川県内全線開業を記念し、「折り紙で作った電車の最多展示」にチャレンジし、ギネス世界記録に認定された。

○自然災害など

- ・2018年の豪雪や2020年の新型コロナウイルス感染症拡大、2022年8月の豪雨災害、2024年元日の能登半島地震など、これまで様々な自然災害があった。豪雨災害では、辰口町も内水で、温泉を中心に大きな被害が出た。
- ・今年は熊の出没が相次いでいる。

○市内の状況

- ・TOPPAN(株)が社名を変えて、日本国内で初めて進出を決めたのが、岩内工業団地であった。東芝は約2,000億円の投資をされている。
- ・和田山古墳群周辺には、防災センターや警察署、能美ふるさとミュージアムができた。
- ・能美工業団地では、日本ガイシ(株)が進出されており、新たに同面積の工場をつくるために今、造成を行っている。
- ・市内を新幹線が走るようになり、能美根上駅も大きく変わった。また、能美根上スマートインターチェンジが完成し、周辺にはビジネスホテルや飲食店ができた。
- ・新しくできた加賀海浜産業道路沿線の福島グランパーク内には、戦略的企業誘致で、女性が多く働く企業も進出している。民営化の第1号の福島こども園がグランパーク内にあり、ここで働いている方たちが子どもを預けられるようになった。今後、総合商業施設もできる予定である。
- ・公園の整備も進めていて、インクルーシブ遊具を備えた公園を2か所整備した。また、和気アドベンチャーガーデン能美ができた。
- ・保育園民営化に取り組んでおり、これまでは15あった公営保育園のうち、まずは福島保育園、続いて湯野保育園と緑が丘保育園を民営化した。現在、4例目となる福岡保育園について民営化を進めている。
- ・防災設備を充実させ、はしご車や津波・大規模風水害対策車、ドローン等、いろいろな資材を整えている。また、救急車も能美市の人口規模では、3台体制で十分とされている

が、金沢大学附属病院や県立中央病院への搬送を行うとなると、その間、市内の救急車の数が不足するので、最新鋭の救急車をもう1台増やし、4台体制とした。

- ・手取川宮竹用水土地改良区と治水協力協定を締結し、大雨警報が出たときには、宮竹用水を排水として使えるようにした。

○ふるさと能美市を知ろう

- ・能美市は、面積が84平方キロメートルで山林の面積が約40%、東西に16キロ、南北に5キロというコンパクトな市である。

- ・県内19市町の中で人口は6番目、面積は下から6番目、人口密度は上から4番目、工業製品出荷額は上から4番目、女性の就業率も上から4番目となっている。

- ・人口当たりの外国人比率が県内市町で1位となっている。一番多いのがベトナム人で、次に中国人、インドネシア人である。外国人が多い理由は、北陸先端科学技術大学院大学の学生と企業での雇用があげられる。

- ・特産品は丸いも、ユズであり、たまねぎの生産量も多い。九谷焼、押し寿司など、他にもたくさん農産品や加工品がある。

- ・辰口町の人口はどんどん増えており、高齢化率は20.5%で100歳の方が1人いる。能美市全体の高齢化率は26%なので、辰口町は若い。また、市内には74町会・町内会があるが、辰口町は面積35番目、人口17番目、世帯数19番目、人口密度24番目、高齢化率67番目となっており、とてもいきいきしている町である。

- ・辰口町には温泉があり、昔、競馬場もあって大変潤ったと聞いている。保育園、小学校、中学校、福祉会館、物見山体育館、温泉と施設がそろっている。誓立寺、集福寺もあり、文化のレベルが高い。また、この20年間でたくさんお店ができ、大変便利になっている。

- ・能登半島地震のときに、温泉や辰口福祉会館で被災者の受入れや慰問をしてもらい、大変感謝している。

○令和7年度予算編成方針

- ・自治体の勢いを表す数値の中で、人口が重要であると考え、事業・施策の7本柱が全て移住・定住の促進につながるように取り組んでいる。

- ・能美市では、自然動態がマイナスになっている一方、社会動態がプラスとなっており、自然減を社会増でカバーして、今人口が少し増えている。

- ・合計特殊出生率が全国や石川県で下がっている一方、能美市は伸びている。さらに子どもを産み育てやすい環境を整備していく。
- ・高齢化率は26%で、現在、市内に100歳以上の方が37人いる。内訳は男性が3名、女性が34名である。
- ・市税が大変好調で、この要因として企業誘致や地元産業の好調、働く人が多くなっていることがあげられる。

○防災減災対策の強化

- ・行政の最大の役目は市民の生命と財産を守ることである。
- ・地震被害想定に基づいて、避難所の設置や避難物資の備蓄を行っているが、今年の5月に公表された新想定では、避難者数がこれまでの想定約3倍、約6,000人に変更となった。避難物資の数量の見直しだけでなく、能登半島地震の教訓を生かし、トイレや乾式の哺乳瓶などを増やしている。
- ・本庁舎に防災・機能強化施設の建築を計画している。水害時に災害対策本部が支障なく開けるよう地下にある電気設備を1階に移すとともに、大災害時に派遣者等の受入れや避難物資を管理する場所の確保と避難所設営担当の教育委員会を本庁舎に移すために、新しい施設を本庁舎の横に建築する。交流スペースも作り、市民の皆さんに気軽に来ていただけるようにするほか、職員の打合せスペースや休憩場所としても活用する。
- ・市立病院とはまなすの丘が老朽化していることから、能美市立病院の在り方検討委員会を立ち上げ、検討を始めている。
- ・大雨や地震の教訓を忘れないよう防災センターの展示のリニューアルを行った。
- ・通学路の安全を確保するため、ゾーン30やゾーン30プラスを寺井町、福岡町、宮竹町で導入してきた。今度は、辰口中央小学校エリアで、道路拡張等を行っている。
- ・市内で交通事故が増えており、公用車や市職員が運転する車等で午後4時から車のライトを点灯する「早めのライト点灯運動」を行っている。
- ・石川県警から安全安心・広報インフルエンサーに任命され、様々な取り組みをブログでPRしている。能美市でも特殊詐欺の被害が多く、詐欺撲滅大使となって、スーパー等で啓発活動を行ったり、ケーブルテレビのGO!GO!PRに出演して、詐欺に気をつけるよう呼び掛けたりしている。

○インクルーシブシティの深化

・デジタル公民館として様々な取り組みを行っており、例えば、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室に参加するために、子育て世代はeスポーツを体験するために、子どもたちにはChrome bookを持って、勉強するために公民館に来てもらう。そして、子どもたちが、勉強でわからないことを高齢者や子育て世代の方に教えてもらったり、高齢者がスマホの使い方を子どもに聞いたりというような交流を公民館でできないかと考えている。

・公民館は避難所になることがあるので、マイナンバーカードを利用した避難所チェックインの導入や、監視カメラを設置し、公民館の付近の川がどれだけ増水しているかや、子どもたちが通ったかどうか等をチェックできるようにする。

・オンライン診療にも取り組んでいる。慢性疾患をお持ちの方は月に1回、薬をもらうため、通院して診療を受ける必要があるが、その負担軽減を図るため、公民館でオンラインによる診療が受けられるようにする。今、実証を行っている。

・自宅での生活をもっと便利にするため、福祉見守りあんしんマップのデジタル化の実証を行っているほか、IoT家電を使った見守りにも取り組んでいる。空気清浄機やエアコンにセンサーがついていて、人の動きがないことを感知すると、民生委員等に通知される仕組みを考えている。

・ライドシェア「ノルノミ」と買物代行のスマート物流を始めたが、両事業とも利用者が少ない。辰口町はまだライドシェアの対象地区となっていないが、スマート物流は対象となっているので、もし利用してみたい人がいれば、市役所に問い合わせほしい。

・能登半島地震のときに能美市へ避難した方が電子カルテに登録してあったことから、能美市でも薬をもらえたり、透析を受けたりすることができた。万が一、能美市に大きな災害が起こり、市民が他自治体に避難しても、そこでスムーズに薬がもらえるように電子カルテの準備を進めている。また、カルテを共有することで、検査結果を他の病院でも確認でき、医療費が安くなったり、診察時間の短縮につながったりという利点もある。

○知名度・魅力度の向上

・2月1日に懸垂幕の設置、3日・4日にお祝い給食を実施した。記念式典は8日に挙行し、その後、記念コンサート、翌日記念イベントを行った。

・能美電で走っていた電車をイメージしたデザインのみバスを導入したほか、図説能美市の歴史を作った。

- ・今年の辰口まつりでは、珠洲からキリコを持ってきてもらい、引き続き能登を応援して
いこうという気運を高めた。

- ・20周年記念事業として、8月に行ったNHKのラジオ体操の収録では、開始30分前の6時
に1,400人もの方が集まり、主催者からお褒めの言葉をいただいた。

- ・敬老会の出席者がだんだん少なくなったため、各町会・町内会ごとの開催とし、周年の
ときは大きく開催することとしている。今年がその周年の年であり、加賀山さん親子や一
川明宏さんを講師にお招きしタントで開催した。生の民謡や三味線の披露に満員の会場が
大変盛り上がった。

- ・和気の岩ドッグランをリニューアルした。無料であり、土日になると多くの人が利用し
ている。

- ・健康ロードもリニューアルし、10/25に行った完成記念式典のウォーキングイベントで約
16km歩いた。その夜には、のみふる古墳まつりで古代衣装を着て歩き、この日の歩数は過
去最高の2万7,475歩であった。

- ・10/26には「なんでも鑑定団」の収録があり、多くの方から鑑定依頼の申込みがあった。

- ・20周年事業の最後を締めくくるゆかりのプロミュージシャンによるコンサートでは、市
の観光大使が出演する。若干まだ席に余裕があるので、ぜひお越しいただきたい。

- ・のみでん広場にある車両を能美根上駅に移設し、無人のコンビニとして利用する予定で
ある。のみでん広場の空いたスペースには、北陸鉄道から貨物車両を譲り受け、展示する。

- ・辰口フラワーハウス跡地については、整備検討委員会を立ち上げ、検討を進めている。
周辺には動物園や温泉、アドベンチャーガーデン等もあり、皆さんの様々な要望を聞きな
がら、多くの人が集まったり、食事ができたりするような道の駅的機能をもった施設にし
たいと考えている。

○エコシティ能美を創造

- ・カーボンニュートラルに取り組んでおり、CO₂を減らすため、公共施設で木材チップ
やカーボンニュートラルガスを使用している。

- ・公共交通の利用や農業振興もカーボンニュートラルに繋がる。

○持続可能な行財政改革

- ・限られた財源をどの順番で、何に使っていくかが重要である。市内の公民館や体育館、

下水道管等が老朽化しており、改修に莫大な費用がかかる。また、市内の11小中学校も老朽化しており、築50年以上が面積比で35%を占めている。まずは安全・安心、おいしい給食を提供するため、学校給食センターを新しく造った。

・財源確保のため、ペーパーレスやフリーアドレスに取り組み、3年間で約1,700万円の経済効果が出ている。また、能美市誕生20周年の節目に抜本的に経費削減に取り組むため、全ての事業、施策を見直すべく、タスクフォースチームを立ち上げた。皆さんに安全安心、快適にいつまでも能美市に住みたいと思ってもらえる、また皆さんの親族や知り合いにも選んでもらえるような市にするため、これからも一生懸命取り組んでいきたい。

4) 閉会